

特別支援教育の

目指すところ

研究室

へようこそ



特別支援教育との出会い

特別支援教育に関心を抱くようになったのは、私が学部生の頃でした。当時は、異文化に関心があり、東南アジアの国であるミャンマーの文化について勉強していました。その国の人々の考え方もっと深く理解したいと思い、実際に何度か現地を訪れたこともあり、その訪問の中である孤児院の支援も行っていました。募金や物資による支援が中心で、果たしてこのような支援だけで子どもたちの将来のためになるのだろうかという疑問を持つようになりました。その時に感じたのは、子どもたちが大きくなったときに自立して生活が送れるように、必要なことを学ぶことのできる機会を作ることが重要なのではないかということです。また、子どもたちの中には、今思えば知的障害があったために、勉強についていけない子どもたちがおり、そうした子どもたちに対して共に社会を構成する一市民として自分が何をしてあげられるのかと打ちひしがれた思いになったことから私の特別支援教育への道が始まりました。

能力をうまく発揮できない子どもたち

知的障害や発達障害のある子どもと触れてみて感じるのは、彼らが優れた一面を持ち合わせているということです。とても社会的で優しい気持ちを持った子どももいれば、記憶力に優れた子どももいます。問題だと感じるのは、優れた点も含めて自分の能力を発揮する方法を知らない子どもたちが多いということです。もちろん自分の能力を発揮することも能力の一つと言えますが、それが私が専門とする「実行機能」です。実行機能という観点から、環境をどのように整え、周囲の人たちがどのように関わっていけば、子どもたちが能力を発揮して、自分の生活を自分でコントロールしているという意識を持つことができるようになるか、それによって自信に満ちた生活を送ることができるようになるかを実践的指導を通して考えるのが、私たちが研究室で取り組んでいることです。



池田 吉史(いけだ よしふみ) 臨床・健康教育学系 助教

専門は発達心理学、障害心理学。佐賀県出身。東京外国語大学大学院に進学し、博士号(教育学)を取得。日本学術振興会特別研究員(DC1)を経て、平成26年4月に本学に着任。平成27年10月より兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科を兼務。日本心理学会学術大会特別優秀発表賞受賞。